

いま
新潟大学の魅力と現在を発信
新潟大学季刊広報誌 [RIKKA]
2019.AUTUMN
 NIIGATA UNIVERSITY
MAGAZINE No. 30

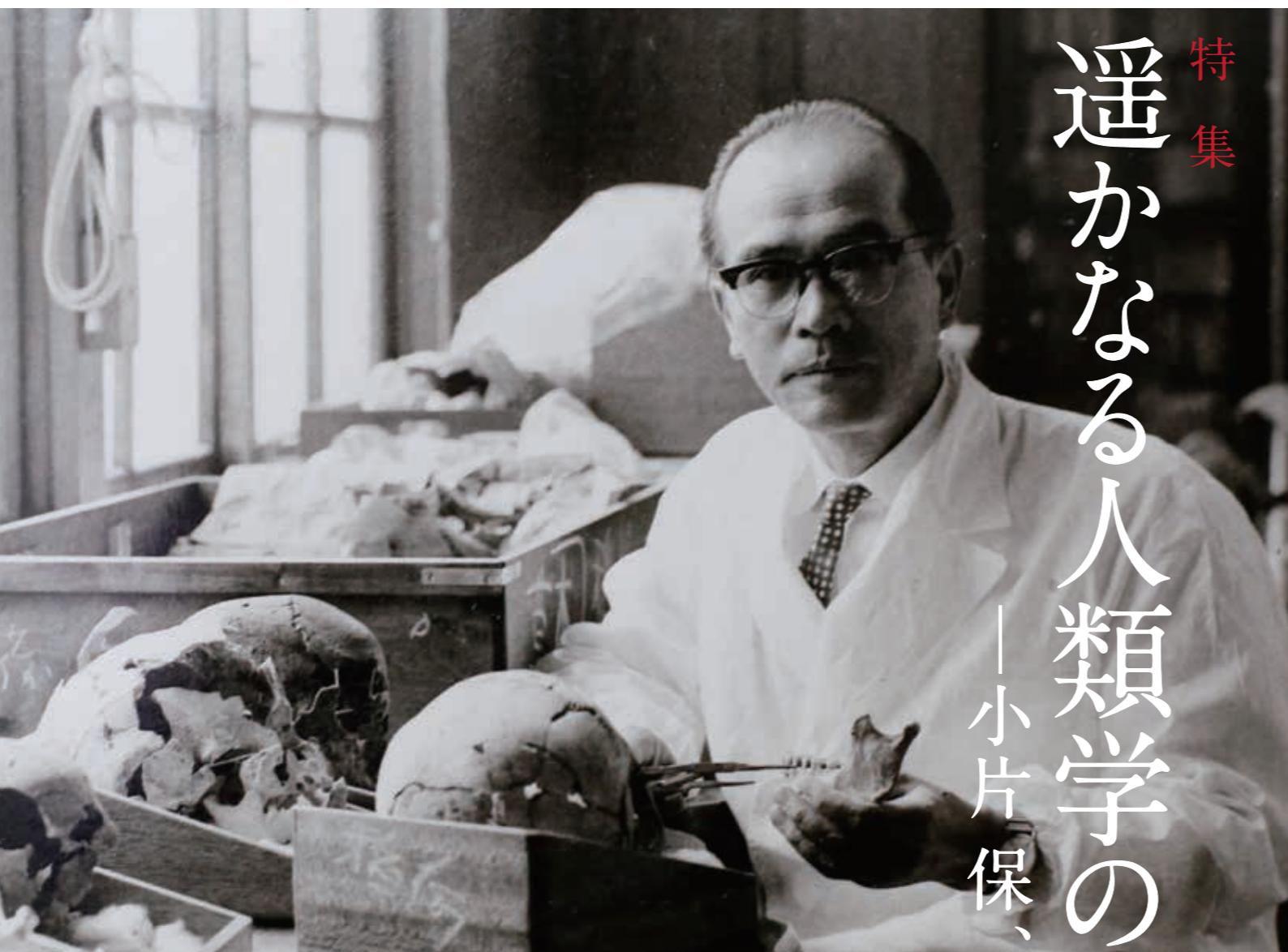
特集

何遙かなる人類学の先に

—小片保、研究者としての生涯—

授業紹介 -教育の現場-

- 学生の課外活動&サークル紹介 Enjoy! 学生ライフ
- 注目される研究報告
- シリーズ 恩師と語らう
- 活躍する卒業生紹介 “学びの先”
- OBOG・教員によるコラム
- 基金関係のお知らせ
- Campus Information



新潟大学が誇る1800体にも及ぶ古人骨標本「小片コレクション」。

縄文時代人研究のメッカとしての象徴であり、

それらの収集、研究にあたったのが故・小片保教授。

生涯を捧げた古人骨からミイラに至る人類学研究の先にみた景色とは?

厳しく真摯な研究者、そして対極にある

国や地域を超えて慕われた人柄の両側面から迫る。

新潟大学医学部の一室には、「小片コレクション」と呼ばれる一群の古人骨標本がある。専門知識などなくとも、標本収蔵室に歩足を踏み入れれば、そこが外界とは異なる空間であることを感じずにはいられない。時空を越えて、壮大な人類学絵巻の中に飛び込んだような錯覚さえ感じるようだ。その数は、旧石器時代人1体を中心とし、古墳時代人など総数約1800体に及ぶ。特に縄文人骨では数少ない早期のものが多く含まれ、これだけの人骨を施設で保有するところはほとんどない。新潟大学が縄文時代人研究のメッカとされる所以である。この膨大な数の古骨を研究、収集したのが本稿の主人公、故・小片保教授。古骨に並々ならぬ情熱を注ぎ、国内外を飛び回ったこの稀有な人

遙かなる人類学の先に何を見た —小片保、研究者としての生涯—

古人骨を通して
人類学に没頭した
稀有名研究者

2019.AUTUMN vol.30

CONTENTS

- 03 特集 遥かなる人類学の先に何を見た
—小片保、研究者としての生涯—
- 08 授業紹介 -教育の現場-
- 09 Enjoy! 学生ライフ
- 10 注目される研究報告
- 12 シリーズ 恩師と語らう
- 13 活躍する卒業生紹介 “学びの先”
- 14 OBOG・教員によるコラム
- 15 基金関係のお知らせ
- 16 Campus Information

新潟大学SNS公式アカウントが更に充実!

従来のfacebookに加えTwitterとInstagramも公式アカウントがスタート。更に本学の取り組みや普段の様子、フォトジェニックな風景などをお楽しみいただけます。
[@niigata.univ](#)
[@Niigata_Univ_O](#)
[@niigata_university](#)

Cover Photo

医学部の研究棟の一角にあり、学内外の研究者に活用されている小片コレクション。温度や湿度が管理された室内には、年代や発掘された場所などに分類された木製の箱の中で、数万年の時を超えた古人骨が眠る。



『六花』とは…

本誌のタイトルでもある『六花』とは、本学の校章のモチーフである“雪の結晶”を表す言葉。本学の校章は、シンボルマークであった学生章をモチーフに本学名誉教授 小磯 稔氏がデザインしたものです。



題字
野中浩俊(のなか ひろとし)氏
新潟大学名誉教授(教育人間科学部)
専門は、書道、富岡鉄斎研究。
現在は、岐阜女子大学 教授

おがた たもつ
小片 保の生涯 1916～1980年

大正5年(1916) 1月15日
前橋市に生まれる
昭和16年(1941) 3月
新潟医科大学卒業
同9月
海軍軍医中尉
昭和25年(1950) 3月
東京帝国大学理学部人類学科卒業
昭和27年(1952) 3月
同大学院修了
同4月
鳥取大学医学部助教授(解剖学)
同7月
医学博士(筋電図の研究)
昭和31年(1956) 10月
鳥取大学医学部教授(40歳)
昭和34年(1959) 8月
新潟大学医学部(解剖学)教授(43歳)
イラン・イラク学術調査[池田次郎助教授]
昭和37年(1962) 2月
理学博士(顔面の復元)
昭和39年(1964) 5月
第69回国日本解剖学会(新潟)
昭和41年(1966)
アラブ連合、トルコ、イタリア、西ドイツ、連合王国などへ出張。
日本人の祖型の研究、ミイラ研究、解剖体収集、
貯蔵方法の研究
昭和44年・50年
アンデス地帯学術調査ペルー原住民の調査
昭和47年(1972) 6月
新潟白菊会を創設
昭和48年～54年
早稲田大学古代エジプト調査。マルカタ遺跡人類学的調査
昭和55年(1980) 1月26日
心筋梗塞のため逝去(64歳)



遺跡魚の丘』の発掘調査に従事されました。最後の第9次調査では、先生以下4名の人類学研究者が参加し、出土人骨、ミイラの調査・研究にあたりました

**周囲に慕われた
人間味あふれる
教師の顔**

妥協を許さぬ研究者であった一方で、その人柄は周囲に慕われた。教師としてはどのような人物だったのか。私たちは新潟大学理事を務める医学部の牛木辰男教授を訪ねた。小片保教授の晩年の3年ほど師事し、亡くなる直前

加藤克知名誉教授へのインタビューに限らず、発掘調査中の小片保教授についての証言調べると、「途中、休むことをしない」「どんな小さな骨片も省かない」「超人的」という言葉に当たる。古人骨に注いだ並々ならぬ情熱、集中力と執念がうかがえる。



新潟大学
牛木辰男 理事

古 人 骨 に 注 い だ 並々 な ら ぬ 情 热 、 集 中 力 と 执 念 は 周 围 か ら 「 超 人 的 」 と い わ れ た

に接した医学学生のひとりだ。

「先生は講義開始時刻の8時半きっかりにいらっしゃり、声高らかに出席をとるのですが、出

席番号「一番から」〇〇さんと全員の名前を呼んでいくのです。私は110番だったので、8時50分くらいに行くとちょうど良く、「ウシキくーん」とか「ダツオちゃん」とか呼ばれました。それからミイラの話やエジプトの調査について、砂漠で手根骨を一日中探し回ったとか、そういうお話をお聞きしました」。牛木教授の発言の端々から感じるのが、年齢や立場に関係ない分け隔てなし、そして感情豊かで人間的な魅力だ。

「優しさの一方で、怒るときは突然。瞬間湯沸かし器“どもい

うのかな、カーッとなることもしばしば。でも、怒ったあとは尾を引かない先生でしたね。夏休みの「スノーカー大蛇講堂」で、俳句もたしなんだ

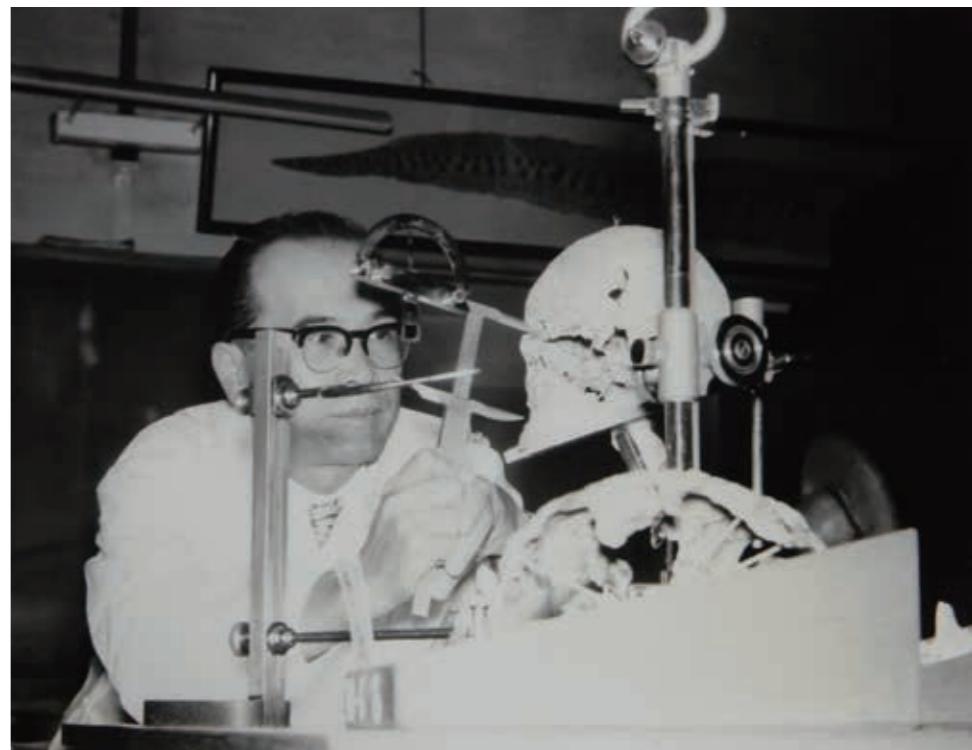


小片保教授は新潟大学に昭和34年8月に着任。昭和55年1月の在任中に急逝。写真は昭和39年頃



学生らと鮟鱇を食べる会を企画(昭和54年)。俳句もたしなんだ

縄 文 人 の 形 質 が 変 化 し た こ と を 明 ら か に 日本 の 人 類 学 に 不 滅 の 功 績 を 刻 む



古人骨を計測する小片保教授(昭和42年夏)



長崎大学
加藤克知 名誉教授



縄文時代人骨(頭蓋)、男性
前期人 中期人
きやしゃな早・前期人 がんじょうな中・後・晚期人

4点目は、「アンデスの人骨の研究」。東大アンデス地帯学術調査団のメンバーとしてアンデスの人骨と日本の縄文人骨の比較などの研究成果を残しました。「先生は後進の研究者にアンデス人骨研究の道を示した日本におけるアンデス形質人類学の先駆者。研究者としてだけでなく、その人柄は現地で高く評価されました」

最後は、早稲田大学のチームと共にした「エジプトの人骨とミイラの研究」だ。
「1973年から1980年までエジプト・ルクソール『マルカタ南

物の研究者人生と、周囲に愛された人柄、人類学を通して先にみた景色に迫る。

生涯をかけ 5つの研究テーマ

新潟大学教授として解剖学教室を主宰した小片保教授の貫した研究テーマは、ヒトの形質が生活様式や文化、自然環境などによってどのように変化するか、つまりヒトの「小進化」の問題であった。その検証のために日本各地はもとより、遠く南米ペルーやエジプトなどの諸外国でも発掘調査を行った。

その研究者像に迫るべく、私たちちは長崎に飛んだ。お会いしたのは長崎大学の加藤克知名誉教授。新潟大学医学部第一解剖教室在籍時の小片保教授とともに研究や調査に当たった最後の愛弟子。研究者としての小片保教授をよく知る人物だ。

まずは、「日本人形質の時代」のテーマに分けられる。加藤克知名誉教授によれば、小片保教授の人類学研究は5つ

あることを発見し、これらは環境や気候、食生活など生活環境の違いによるものであることを明瞭にしました。縄文時代各時期の人骨を丁寧に調べることにより、中期を境に形質的に大きな変化があることを見出したのです。これは縄文時代の人々の形質には概ね変化がなかったとする当時の通説に大きなインパクトを与えた。日本的人類学に不滅の功績を刻んだのです」

2点目は、「日本旧石器時代と旧石器時代に準じる人骨研究」である。「思い出深いのは、昭和42年富山県水見市泊洞穴での人骨発見研究」である。

「思い出深いのは、昭和42年富山県水見市泊洞穴での人骨発見研究」である。

3点目は、「日本の入定ミイラ(即身仏の研究)」。小片保教授は、日本におけるミイラ研究のパイオニアである。

「先生は日本ミイラ研究グループの主要メンバーとして、弘智法印を手始めに12体以上の入定ミイラを調査し、永久保存処置を行いました。調査研究や保存法などの知見は、学会や印刷物に発表し、日本にも入定ミイラという特殊な背景を持つ永久死体が存在することを全世界に紹介したのです」

4点目は、「アンデスの人骨の研究」。東大アンデス地帯学術調査団のメンバーとしてアンデスの人骨と日本の縄文人骨の比較などの研究成果を残しました。

「先生は後進の研究者にアンデス人骨研究の道を示した日本におけるアンデス形質人類学の先駆者。研究者としてだけでなく、その人柄は現地で高く評価されました」

最後は、早稲田大学のチームと共にした「エジプトの人骨とミイラの研究」だ。

「1973年から1980年までエジプト・ルクソール『マルカタ南



亡くなる直前に撮影されたエジプトのクルナ村の子どもたちと小片教授

決して結論の出ることがない 人類学研究の先にみた “世界中の人々の平等と和” 突き詰めれば人類はみんな同じである

感ります。まだまだやらなければならぬことがある、しかし、それは永遠に結論を見出せないものだといふことも含まれていたのだと思います。極論を言えば、昔ながらの研究者は、結論はどうでもいい。研究に没頭することに価値がある”と考えたのです。今の方たちは論文に対する強い想いを持つ

な事情から求められるし、成果を出すことに躍起にならざるをえない。過程を大事にすることは難しい時代になってしまったが」

しかし、在任中の昭和55年、心筋梗塞のために急逝してしまった。突然のふ報が、小片教授を知る多くの人々に驚きと失意をもたらした。



新潟大学における人類学の宝 小片コレクション
小片保教授が新潟大学および前任地の鳥取大学時代に蒐集した約1800点と、ペルーのチャンカイ頭蓋など約200点による膨大な古人骨標本。エアコンによる温度、湿度管理がされた医学部内の収藏室に大切に保存され、学内外の研究者に活用されている。その一部は、旭町学術資料展示館において「人骨の変遷」コーナーとして、縄文から弥生・古墳・中世・近世・現代の各時代の標本を一般公開している。

小片保教授の研究の中核を成すテーマは縄文人骨であった。生涯を通して没頭し、情熱を傾けたその理由は何だったのか？ その答えの端を加藤克知名誉教授への取材から垣間見ることができます。「先生は“日本人とは何ぞや”と

感じます。まだまだやらなければならないことがある、しかし、それは永遠に結論を見出せないものだといふことも含まれていたのだと思います。極論を言えば、昔ながらの研究者は、結論はどうでもいい。研究に没頭することに価値がある”と考えたのです。今の方たちは論文に対する強い想いを持つ

から到着まで4時間以上泣き続け自分で恥ずかしくなったと言つていました」

「父は大変涙もなく、闘病を描いたドラマ『愛と死を見つめて』では始まる前から泣いており、『柔道直線』ではこれは本物の師弟愛だと涙していました。東京への出張中の列車で開いた零戦の本では、いろいろ思い出し出発から到着まで4時間以上泣き続

け自分で恥ずかしくなったと言つていました」

**縄文人骨の
先にみた
日本人とは？**

小片保教授の研究の中核を成すテーマは縄文人骨であった。生涯を通して没頭し、情熱を傾けたその理由は何だったのか？ その

答えの端を加藤克知名誉教授への

取材から垣間見ることができます。

「父は大変涙もなく、闘病を描いたドラマ『愛と死を見つめて』では始まる前から泣いており、『柔道直線』ではこれは本物の師弟愛だと涙していました。東京への出張中の列車で開いた零戦の本では、いろいろ思い出し出発から到着まで4時間以上泣き続け自分で恥ずかしくなったと言つっていました」

「父は大変涙もなく、闘病を描いたドラマ『愛と死を見つめて』では始まる前から泣いており、『柔道直線』ではこれは本物の

師弟愛だと涙していました。東

京への出張中の列車で開いた零戦

の本では、いろいろ思い出し出発

から到着まで4時間以上泣き続

け自分で恥ずかしくなったと言つていました」

「父は大変涙もなく、闘病を描いたドラマ『愛と死を見つめて』では始まる前から泣いており、『柔道直線』ではこれは本物の

師弟愛だと涙していました。東

京への出張中の列車で開いた零戦

<p

Enjoy! 学生ライフ

CAMPUS TOPICS

大学見学に訪れた小学生のために学生団体が体験教室を企画



9月19日(木)、近隣にある五十嵐小学校の全校生徒約800人が五十嵐キャンパスに大学見学に訪れました。小学生たちは、各学部の教員による模擬講義や学生団体が企画した体験教室などに参加しました。今回協力してくれた学生団体と企画した体験教室は、にいがた総おどり連 新舞「よさこい」、児童文化研究部「紙コップロケットづくり」、まなび屋「スライムづくり」。小学生たちが楽しく充実した時間を過ごせるよう、何週も前から企画を練って準備をしていました。各会場では、学生たちが踊り方や作り方を小学生にやさしく丁寧に説明。その後、一緒に踊ったり、会話しながら紙コップロケットやスライムづくりを楽しみました。あちこちから楽しそうな声や笑い声、さらに元気な挨拶や心のこもった感謝の言葉が聞かれ、会場はどこも笑顔で溢っていました。

燕三条医工連携デザインコンペティションを開催、医学部医学科学生のチームがグランプリ

本学が今年度設立した、燕三条地域の企業等との連携を強化するために、同地域の民間団体7団体との協働による「燕三条医工連携コンソーシアム」の事業として、県内大学学生を対象にした「燕三条デザインコンペティション(審査委員長:新潟大学医学部寺井崇二教授)」を開催し、8月23日(金)、燕三条地場産業振興センターを会場に最終選考会を行いました。



初開催となる今回は、医療現場のニーズに基づいた「①内視鏡を固定できる器具」、「②立っているのに座っているかのような楽な姿勢がとれる器具」の2課題を募集したところ、県内大学から11件の応募があり、プレゼンテーションによる最終選考会の結果、医学部が主体となって医学・医療分野でイノベーションを起こすことを目指す学生団体「LIFE(Laboratory for innovation, Frontier and Revolution)」を運営する本学医学部医学科の山口貴士さんらの提案がグランプリを受賞しました。実際の医療現場で学ぶ医学生ならではの視点によりデザインした器具の提案が、審査員からの高い評価を得ました。

CIRCLE PICK UP!

弓道部

弓を引く度に多角的な問題解決能力が培われる

大学会館と第3食堂の喧騒を抜けると、袴をまとい凛とした表情で遠くの的を見据える学生の姿が目に飛び込む。一列に並びそれぞれのルーティンを確かめながら丁寧に弓を引く、ひとつひとつの所作に職人の気質すら感じる。約60人の弓道部員が、週に4回放課後の練習に、弓道場に集まる。「近代的な洋弓と違い、和弓は中世から変わらない道具で、そもそも真っすぐ飛ばすこと自体難しいです。基本的には的に中るか中らないかで勝敗が決まります」。和やかな雰囲気で準備を進める部員達の表情が練習を始めると豹変する。「とにかくオントオフがはっきりした部ですね。弓道と言うと、集中力・メンタルの強さというイメージを持たれると思いますが、身につくのは“問題解決能力”だと思います。的に中らなかったとき、なぜ中らなかったのか原因を自分で振り返り、他の部員からのアドバイスを仰ぐなど多角的に分析します。単純がゆえに奥が深いですよ」



部長 太田徹平さん
(人文学部3年)

募集中

長期実践型インターンシップ 1day インターンシップ

詳細はお問い合わせください。

- ・IT コンサルティング
- ・システム開発
- ・Webサイト制作

SIANCE
誠実さと信頼の名のもとに
株式会社ジアンス

〒950-0088 新潟市中央区万代 2-3-16 リバービュー SDビル10F
TEL : 025-246-4666 MAIL : info@siance.co.jp
URL : https://www.siance.co.jp/

田中一裕 準教授

Kazuhiro Tanaka

Profile

博士(教育学)。専門は社会科教育学。
2017年まで県内各高校の教諭を務める。



意欲ある学生が伸び伸びと勉学に勤しむ

授業紹介

—教育の現場—

専門的な知識や技術の修得と、均整の取れた知識の獲得は教育の重要な役割。約5,000科目の中から特色ある授業を紹介。

vol.29・創生学部



理系文系の区別なく、学生が個々に目標を定めて自分に合った遊びを創ると、いう、全国でも珍しい学修スタイルの創生学部。その期生(現在の3年生)が向かうプロジェクトゼミは、周りとコミュニケーションを取りながら各自の課題を整理していく授業。その特徴を当日のゼミ担当・田中准教授

に聞いた。「私の専門は教育学なので、人と人とのかかわりを重視しています。内容には二つの側面があり、まずゼミ全体のテーマが“キャリア教育”です。9月に正徳館高校へ出向き、高校生のキャリア教育を大学生が担当してきました。中身は人生紙芝居というもので、大学

STUDENTS VOICE



左: 安田舞耶さん
(創生学部3年)

右: 小西凜太朗さん
(創生学部3年)

「まだ自分が研究したいテーマを絞っている段階でしたが、このゼミでまとまった実感があります。“発達障害児の教育”を研究していきたいです」(安田) 「各々が多種多様な研究テーマに向かう中で、互いの考えを発表し、意見し合いながら進めていくゼミ。多角的な視点から研究をブラッシュアップできるし、刺激にもなります。人への伝え方も学べます」(小西)

生が自分たちの人生のアップダウンを紙芝居にして発表したり、高校生に将来やりたいことを紙に書いてもらいながら、自分のキャリアを考える目的の演習です」

チだが、田中准教授が「ゼミのもうひとつ側面は個人のテーマの追求」と言う。この日の授業も興味深い。学生がそれぞれ研究したいテーマと方向性を発表し、

「スタート時点では学生がひとりで考えていてますが、やはり途中で迷ってしまいます。そこの人からいろいろ質問されたり意見をもらうことで、自分の考え方の視野を広げたりと思う」

「そういふ力は将来、社会へ出た際に必要とされると思います」

専門知識を身に付ける一方、人とコミュニケーションする人間力も養う。理論と実践が共存した、まさに創生学部ならではのゼミだ。

A アートホテル新潟駅前

新潟市中央区笹口1-1 ブラーカー4F
TEL 025-240-2111 FAX 025-240-2112



【レストラン 彩巴～いろは～ 4階】

朝食、ランチ、ディナー、パーティーまでお気軽にご利用ください。

【宴会場 4階】(大小6会場・最大:250名)

懇親会、親睦会、打ち上げなど多様な場面でご利用いただけます。



注目される研究報告

新潟大学では、伝統的な学問分野を継承するとともに、専門分野を超えて連携し合う研究や、先端的な研究など、真理探求や社会の発展に貢献する研究を行っています。

自然科学系(理学部)
則末和宏 准教授

| Profile | 博士(理学)。専門は海洋化学、分析化学。海水中の物質に着目し、海洋現象と関わりについて研究

研究課題 海洋における超微量元素・同位体についての研究

海洋中の微量成分を調べることで 地球・海洋環境の理解の深化に貢献

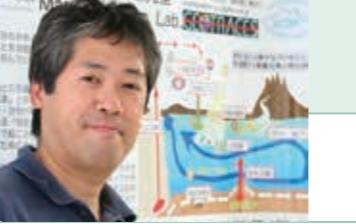
海水中には周期表上にあるほとんどの元素が存在する。その中でも濃度が極めて低いものは「微量元素」と呼ばれ、大部分の元素が分類される。則末和宏准教授は、これらの「微量元素」と、その仲間の「微量元素の同位体」に着目し研究を行う。

「微量元素は濃度が低いことに起因するため、分析・計測が極めて難しい。しかし、それらは海洋で起こるプロセスを鋭敏に反映したユニークな時空間変動を示すため、海洋の状態を調べる上で非常に有用なのです。例えば、海底から噴出する高熱水の中にあるヘリウムを調べることで、深層流の動きが分かります。海水は地球全体を循環するのに1000~2000年かかると言われますが、時間スケールが長く広範囲に渡る海水の動きや分布も、海洋中

の微量成分を調べることで分かるのです。則末和宏准教授は調査のために、長期間の外洋観測に出かける。日本海や太平洋、インド洋、遠くは大西洋や南極海の海上で、表層から底層までの外洋水をクリーンにサンプリング。おびただしい数にふくれあがったサンプルを陸上に持ち帰って科学的方法で分析・測定する。

「海洋における微量元素と同位体に関する研究成果を蓄積し、地球・海洋環境の理解の深化に貢献できればと考えています。海洋についての基礎的な知識はまだ少なく、時代とともに状態が変わるので常に知識をアップデートしていくなければなりません。例えば、福島の原発事故の結果、漏洩した放射性セシウムが、日本の近くに留まるのか、沖合に出ていくのかを調べる上でも海洋における物質の動きは把握しておく必要があります。研究により得られた知見が、地球の今後の運命を推測するうえで大切になってくるのです」

また、全世界の火山活動の10パーセン



▲海洋水を保管する大量のコンテナ



▲国際GEOTRACES計画相互較正航海の集合写真。海外の研究者と連携し観測・研究をする

トを担う、世界的にもレアな場所に位置する日本において、海洋研究は非常にマッチすると続ける。

「地震や台風などの自然災害が起こる可能性が高い日本は生活するのに大変な土地。このような場所で暮らす私たち日本人にとって、地球を相手にする海洋研究はどうでも意義深いと思います」

人類を取り巻く環境は急速に変化している。自然環境や現象を観測し、その背景にある複雑な要因を紐解こうとする則末和宏准教授の研究はますます重要になってきそうだ。



▲サンプリングに使用するCTDクリーンマルチ採水システム採水器



人文社会科学系(経済学部)
石川耕三 准教授

| Profile | 専門は開発経済学、東南アジア経済論。特に近現代インドネシアの金融政策および銀行経営史を研究

研究課題 インドネシア・バリを拠点とした教育・研究ネットワークの構築

東南アジアと新潟との教育・研究体系の強化を目指す



界的リゾート地域に立地する利点を生かした、観光学部を擁するのが特色です」

ウダヤナ大学の観光学部は、社会科学分野の観光学専攻の教員だけでなく、実務家教員も所属し、世界基準のホテル経営学や、バリのリゾート施設等でのホスピタリティ研修(3ヵ月等の比較的長期の実地研修)が実施されている。まさに世界水準の観光学が学べる教育施設だ。

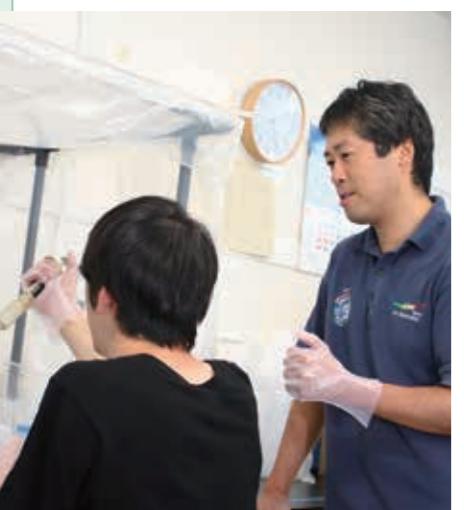
「2019年度は、経済学部の学生をウダヤナ大学に派遣し、短期研修プログラムを実施する予定です。インドネシア・バリ経済(文化)一般から、ホテルマネジメント等も含む観光実務を英語を使った講義形式で学びます。また、研修期間後半では実地フィールドワークも行います。訪問先としては、経済官庁、観光関連官庁、観光局、ホテル等を考えています」

今後はさらに、交換留学(学部・大学院生)、教員の相互派遣、共同研究プログラム実施、合同シンポジウムの開催など、教育・研究ネットワークを深化させることも



▲ウダヤナ大学との大学間交流協定締結。高橋副学長(国際・環東アジア構想担当)とRaka Sudewiウダヤナ大学長

▲2015年2月にウダヤナ大学で行った短期研修プログラムの様子。英語での授業とフィールドワークを行った



病気と闘う子どもと、
その家族が一緒にいられますように。
-小児医療宿泊施設- ドナルド・マクドナルド・ハウス にいがた

詳細は

新潟大学 ドナルド・マクドナルド・ハウス にいがた

2022年4月
開設予定

誘致の募金にご協力お願いいたします。

検索

お問い合わせ: サポーター連携推進室 TEL: 025-262-6010 E-mail: kikinjmu@adm.niigata-u.ac.jp

新潟大学生協は、
新潟大学生と新潟大学に
貢献します



大学生協の公務員講座は国・地域・未来を創る人材を輩出しています 新潟大学公務員試験対策学内講座

一次試験対策だけでなく、
人物試験対策、仕事研究など、
総合的なサポートで合格を後押します!

2019年3月卒業生(8期生)
最終合格者

246名

お問い合わせ先 新潟大学生活協同組合 TEL. 025-262-6203 ホームページ <http://www.univcoop.jp/nuc/>

Campus Information

地域に密着しながら様々な活動を続ける新潟大学。皆さんにお伝えしたいニュースはたくさんあります。

2020年4月に経済科学部を新設します

2020年4月に文系4学部を再編し、経済学部を母体に経済科学部の新設を計画しておりましたが、このたび、文部科学省大学設置・学校法人審議会の審議の結果、設置が認められ9月3日に五十嵐キャンパスにおいて記者会見を行いました。新たに設置される経済科学部は、経済学と経営学を出発点として、それを〈横に広げていく途〉と、〈深めていく途〉をふたつずつ、合計4つのプログラムから選択ができます。〈横に広げていく途〉は、グローバル化した社会を考えている方、地域社会を考えている方へ学びの場を提供する「学際日本学プログラム」と「地域リーダープログラム」です。〈深めていく途〉は、従来の経済学科、経営学科とほぼ同じプログラムですが、科目選択などの自由度を上げると同時に必修科目を増やし、確実な学力が身につくよう「経済学プログラム」と「経営学プログラム」を設置しました。経済学・経営学を学びたい受験生はもちろん、社会人にも門戸を開いています。



2019年度「科学技術イノベーションによる地域社会課題解決(DESIGN-i)」に採択されました



佐渡自然共生科学センターと佐渡市が中心となり提案した「生物多様性と農業技術革新が共存するエコロジカル・コミュニティの実装」に向けて：里山創生「佐渡モデル」の構築が文部科学省「2019年度科学技術イノベーションによる地域社会課題解決(DESIGN-i)」に採択されました。同事業は、地方自治体と地域の大学が中心となってチームを構成し、「地域のポテンシャルを最大限引き出すための未来社会ビジョン」を設定するとともに、「持続可能な開発目標(SDGs)」の達成にも繋がる、解決すべき地域が抱える多種多様な社会課題を技術課題へと転換させ、将来的に地域内外の大学や研究機関が持つ研究シーズを取り込みつつ、小規模試行実験・社会実装の取組へ繋げることを想定し、科学技術イノベーションを活用した解決策を構築する事業です。今回の提案は、佐渡の里山地域をフィールドに、地域住民と技術者等が集う対話型協働探求の場(未来会議)を展開し、地域内外の多彩な STI を生かした課題解決の可能性を切り拓くことで、生物多様性と農業技術革新が共存する里山創生の新たなモデル開発を目指します。

旭町新弓道場が卒業生の皆様の寄附などを活用し、完成しました

旭町の弓道場が、築40年以上経過し、老朽化による破損が相次ぐなど、また、弓道部部員全体で約90人となり、道場が手狭となっていることから、医学部医学科、同保健学科、歯学部の各弓道部卒業生の皆様から寄せられた寄附金などを活用して、弓道場を新設し、2019年7月7日(日)に完成記念式典を開催しました。新弓道場は、室内には木材を積極的に利用し、開放的な空間となるよう配慮した他、射場は旧弓道場の倍の幅を確保、投光器には LED を設置しました。式典では、ご来賓の医学部医学科弓道部 OB の小林 煉様から旧弓道場の思い出や新弓道場建設に係る経緯、学生に対する激励のお言葉が贈られました。弓道部代表学生からは、「練習環境が格段に良くなり感謝しております。今まで以上に練習に励み、東医体、全歯体、看学戦をはじめとした全ての大会で優秀な成績を上げることを約束します」との意気込みが語られました。

